

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

地区代表2名、民生委員代表1名
通学安全・学校ボランティア代表1名
公民館代表1名、保育園代表1名
地場産食材提供者代表1名
PTA会長・副会長3名、学校代表3名

※地域コーディネーター(3名)

・公民館長 ・高校職員 ・市役所職員

(2) 協議会の内容

年間3回開催

1回目 5月31日(金)

学校経営方針、本会の趣旨、学校評価の説明、本校の実情提供、ふるさと学習

2回目 10月5日(火)

本校の実情提供、家庭・地域の教育、ふるさと学習

3回目 3月5日(木)

学校評価結果の公表・検討
次年度に向けて

(3) 協議会における成果と課題

「子どもが主体となる授業づくり」・「子どもがモデルとなる学校づくり」の実現を目指して、地域との連携を図り充実した取組ができた。ボランティアの方も高齢化が進み、下校や教育活動等におけるボランティアの人数確保が今後の課題である。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の人々の話や調べ学習を通して、自分達の住む小浜の自然や伝統についての理解を深め、郷土愛を育み、小浜の未来をよりよくしていこうとする子を育成する。



よっぱらい鯖のえさやり体験

(2) 活動の実際

①「小浜の地形を知り、山と海とのつながりを考えよう」(5・6年)

5・6年生は、小浜の鯖をより有名にすることを目指し、鯖を使った新しい商品を考えようと、様々な体験活動を企画した。多田ヶ岳へ登ったり、シーカヤックを体験したりすることで、山と海とのつながりを知った。また、よっぱらい鯖の養殖現場へ行き、えさやり体験を行った。6年生は、修学旅行で自分たちの考えた「へしこピザ」を、奈良市の小学6年生に紹介した。

②伝統芸能「壬生狂言」に関わる活動(4～6年生:クラブ活動)

和久里壬生狂言保存会の方々から年間を通して演技等の指導を受けた。児童は、練習の成果を、公民館でのふるさと祭りや校内発表会で披露した。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

学校の思いを聞き取った上で、そこから考えられる活動内容を提示し、活動内容を決定。活動でお世話になる当事者や各機関と学校との連絡調整をしてくださった。

(様式3)

(4) 特に工夫した事項

- ・コーディネーターとの関わりでは、体験活動の計画の際に、安全の確保を第一に内容を考えた。また、児童の希望を実施するため、児童の考えをコーディネーターに詳しく伝えた。
- ・各学年が活動内容について学習発表会を行い、小浜の良さを学校全体で共有できるようにした。

(5) 成果と課題

本活動の成果は、体験活動をより多く計画・実施することができたことにより、児童らが実感を伴った理解をすることができたことである。触覚・味覚などの五感で、小浜の漁業や農業に触れ、美味しさに感動したり、携わる人々の努力に感謝したりして、ふるさとを愛する気持ちを高め、2月の学習発表会をすることができた。児童のアイデアを実現するために、地域コーディネーターの方々の支えが不可欠である。今後も継続して連携できるかが課題として考えられる。